

第21回Next30産学フォーラム

9月25日(金)、第21回Next30産学フォーラムを開催、51名が参加した。



はじめに、名古屋工業大学工学研究科おもひ領域准教授の佐藤尚氏が「植物や昆虫の手足などの生物と同じ構造を持った先端材料 ～”強さとしなやかさ”を持つ『傾斜機能材料』～」をテーマに講演を行った。近年、衝撃特性に優れた「傾斜機能材料*」の開発が進んでおり、中でも、オイルレス軸受部材は、自動車用エンジンの摩擦低減に効果があり、将来的には風力発電機にも活用していきたいと述べた。

次に、愛知工業大学工学部電気学科准教授の道木加絵氏が「ロボット技術の歴史と最前線 ～産業から社会に広がる応用～」をテーマに講演を行った。最近の日本では、実用性をより重視したロボットの開発・研究が盛んになっており、その事例として、公道での自律走行実験やインフラ点検用ロボットなどを紹介した。

続いて、愛知工業大学情報科学部情報科学科教授の伊藤暢浩氏、トヨタ自動車(株)パートナーロボット部製品設計室長の菅敬介氏が中部におけるロボット開発の取り組み紹介を行った。伊藤氏は「RoboCupの面白さと難しさ」をテーマに、RoboCup世界大会の歴史や、ロボットサッカーを中心とする競技内容の進化を紹介した。菅氏は「ロボット分野におけるトヨタの取り組みについて」をテーマに、人の移動支援や医療・介護分野におけるリハビリ・生活支援のロボット開発

について紹介し、いち早く一般の方にも利用できるように、実用化に向けた研究を進めていきたいと述べた。

*傾斜機能材料とは、材料内部の組成を連続的に傾斜させることにより、組織や特性を連続的に変化させた材料概念

(産業振興部 水田 晴久)

第2回人材育成委員会

9月30日(水)、第2回人材育成委員会を人材育成専門委員会と合同で開催、委員長の中村副会長はじめ40名が参加した。

本委員会は、中経連の活動の3本柱である「ものづくり」「まちづくり」「ひとづくり」の一つである「ひとづくり」に関する活動の充実を



目的に、これまで人材育成に関する調査研究を担ってきた人材育成部会(企画委員会の内部組織)を発展させ、新たに多数の委員の参加を得てスタートした。

人材育成に関する会議としては、7月に開催した第1回人材育成部会に次いで今年度2回目の開催となる。

委員会では、企業が求める人材像や、その育成における課題・解決策等に関するアンケート結果、「企業・人材プール」の試行状況、産学が連携した人材育成の実践策などについて意見交換を行った。

委員からは「育成すべき人材像の共有、カリキュ



ラムの見直し等に産学の連携を深めて取り組むべきである」「その前提となる産学間の交流をさらに活発に行う必要がある」といった意見が出された。

今後は、「企業・人材プール」の拡大・活性化策や、人材育成の実践策のあり方等について検討を深め、来年度以降、具体的な活動に取り組んでいく予定である。

(企画部 久保田 孝重)

第1回経済委員会

10月1日(木)、第1回経済委員会を開催、委員長の豊田副会長はじめ40名が参加した。



会の冒頭、豊田委員長が「アベノミクスからローカルアベノミクス、すなわち地方創生へと政府の施策の重点がシフトしている中、今年度は地方創生、人口減少問題、東京一極集中の是正の3つをキーワードに、『新中部圏の創生』をテーマとする政策提言を行いたい」と挨拶を述べた。

次いで、植松専門委員長(トヨタ自動車(株)総務部担当部長)および事務局より「検討の進め方(案)」について説明を行い、審議に移った。委員からは「地域特性に合った施策を実施することが重要である」「留学生をいかに労働力として取り込むかを考える必要がある」など活発な意見が出され、その後、原案は了承された。

続いて、法政大学大学院政策創造研究科教授の小峰隆夫氏を講師に迎え、今年度の検討テーマにちなみ「人口減少下の地域創生」と題した講演

を行った(本誌12月号に講演要旨を掲載予定)。

(調査部 加藤 慎哉)

第1回社会基盤委員会

10月6日(火)、第1回社会基盤委員会を開催、委員長の柘植副会長はじめ32名が参加した。



社会基盤委員会では昨年度より、鉄道・道路・空港・港湾などの交通インフラについて、国際競争力強化や観光振興に加え、防災・減災意識の高まりや平成39年のリニア中央新幹線の開業など、中部圏を取り巻く環境変化を踏まえ、交通ネットワークの必要性とそのあるべき姿を検証し、「交通ネットワークビジョン」として取りまとめるべく活動を行っている。

今回の委員会では、昨年3月の同委員会において承認されたビジョンの構成案に基づき、各地の商工会議所や会員企業等に対してヒアリングを行った結果、ならびに今年度に2回開催した専門委員会での検討結果を反映した「交通ネットワークビジョン シナリオ素案」などの説明を行い、意見交換の後、承認された。

委員からは「交通ネットワークの将来については夢があるが、老朽インフラの維持をこれからどうしていくかが重要である」という意見や、「短期、中期といった期間に応じた整理をしているのは分かりやすい。今後はさらに議論を深め、検証を行っていくとよい」という感想など、活発な意見交換が行われた。

(社会基盤部 山口 智)